

「続・宮本武蔵」映画化を訪ねて

お酒、スポーツ、演技の語らいなど！ **コンビ放談**
ぴったりの配役、武蔵と小次郎 スターふたりが語るロケ宿の一夜は？

今年の正月映画で女性ファンを湧かせた「男性No. 1」というのを御記憶でしょう。そうです。鶴田浩二さんと三船敏郎さんのお二人が剛・優の両面を夫々代表して暴れ廻った痛快娯楽篇です。この顔合せの人気を再びスクリーンに迎えたのが、いま、東宝で撮影中のイーストマン・カラー「續・宮本武蔵・一乗寺の決闘」です。

この映画には木暮実千代さん、岡田茉莉子さん、八千草薫さん、水戸光子さん、北川町子さん、尾上九朗右衛門さん、水島道太郎さんとズラリ顔を並べた豪華キャストですが、特に三船さんの宮本武蔵に鶴田さんの佐々木小次郎は監督の稲垣浩さんも「今までにない武蔵・小次郎で絶対です」と太鼓判を押すほどで、大変期待されています。そこで名実ともに男性No. 1であるお二人に伊豆のロケ宿のホールであれやこれやと対談して戴きました。

まずお酒談議が挨拶で！

三船 やあ ——

鶴田 しばらく、いま着いたんですよ。調子はどう？ こっちは天気が悪いそうぢゃあない？

三船 ええ。どうも宮本武蔵は天気に崇られるようになってんですね。第一部の時も日光ロケが延々二ヵ月もかかったりね……今度も十日の予定が二十日ぐらいになりそうだな。

鶴田 一つ天気祭りでもやりましょうか。

三船 僕は毎日、天気祭りをやったんですがねェ——、こうしてホールのバーで呑んでは——（二人大いに笑う）

鶴田 相変わらずですね、誰だったか言ってましたよ、二時間でウイスキーを一本半あけてしまったって ——

三船 いやあ大分前でしたが、あの時にさすがに参りましたね。翌日、喉がかわいて、水ばかり飲んで、舌がもつれてセリフが出て来ない……。

鶴田 とてもそんなファイトないな、もう年ですかな —— 僕なんかも無茶呑みは出来なくなった。大体、僕は外ではあまり呑まないんですが、——此の頃、千葉から送って来た生酒をね、寝しなに二合ぐらい呑むのが楽しみで ——

三船 晩しゃく型？

鶴田 そのほうが翌日調子いゝ —— 僕は神経質のほうでしょ、だから呑むとよく眠れ

るんですよ。

三船 日本酒が好きなんですか。

鶴田 いいや、洋酒が好きだったんですが —— 今でも事務所には僕専用のオールド・パーを一本置いてありますよ、三船さんは。

三船 僕は呑むものなら何でも。ビールであろうと、ウィスキーであろうと、日本酒であろうと。

鶴田 強いんだな ——

三船 散々呑んだあとで、冷いカクテルをキューッと呑むのがうまい ——

鶴田 三船武蔵は酒豪だが、剣豪のほうの武蔵はどうなんだろう。呑んだのかしら。

三船 いやあまり呑まないでしょう。剣聖と云われるぐらいの人は呑むと矢張り隙が出来るから呑まないと言う話ですよ。扇屋のシーンで、吉野太夫なんかにすすめられても「弱いから」と云って呑みませんね。

鶴田 じゃ三船武蔵、夜は酒豪で昼は剣豪というところですね（笑）

三船 「一乗寺の決闘」の時は禁酒ですよ。なにしろ三日間で約四十カットあるって云う話だから相手は吉岡門弟で八十名ばかりが入れ替りだからいいけれど、こっちは一人ですからね。前の晩、呑んでいたら翌日肝臓が痛みますよ。

鶴田 三船さんは身体がいいからなあ、身体で呑むんですね。

似た者同志でスポーツも！

三船 だけど貴方も卓球だの野球だの、運動がお好きなくらいだから、身体は丈夫ですよ。

鶴田 丈夫ですね。卓球は学生時代からで年期が入ってますが、野球は映画のなかで¹阪神タイガースの人たちと合宿したことだから好きになりましたね、今では「クレインズ」と云うチームを近所で作りましてね、ひまさえあれば野球をやっています。このロケにも野球道具は一式持って来てますよ。

三船 僕も運動は好きですが、野球には悩まされましたね。この武蔵の前に、丸山監督の「男ありて」と云う作品に出ていたんですが、この中で僕は一塁手になったんです。それまで野球はキャッチ・ボールぐらいで、「七人の侍」の時など、黒沢監督とよくやったんですが、本当の一塁手の真似をするとなるとこりゃ難かしい。名古屋の中日スタジアムにロケした時も十回球を送られて、一回ぐらいしか取れない。中日の児玉選手に手ほどきはしてもらったんですが。

鶴田 僕は主将で主戦投手ですが草野球としてはチョットしたもんですよ。

三船 じゃ、補欠ぐらいで「クレインズ」球団にでも入れてもらうかな ——

鶴田 兎に角、スポーツは楽しい、やっている間は、凡てを忘れる。いやなことも、明日の苦労も ——

三船 僕の呑んでいる時と同じだ。（笑声）

鶴田 呑ん兵衛だなあ —— （笑声）

¹ 「栄光への道」 S25.2

三船 話は違うけど、鶴田さんの小次郎はなかなか評判ですね、前髪姿も凛々しく、美剣士、鶴田小次郎。

鶴田 それだけは言いつこなし、前髪のこと言われるとゾーッとする。(笑声)

三船 案外照れ屋ですね。

鶴田 スチールを見ると非常に甘い感じなので、それが映画で邪魔をしないでくれればいいと思っているのですが――

酔いが廻れば演技の話も

三船 小次郎の性格は興味がありますね。

鶴田 そうです、それで僕もお引受けしたわけなんですけど、難かしいですね、三船さんも同じだと思うんですが、原作が余りにも有名で何度も映画化され、その都度、僕よりも年齢的に経験的に先輩である人がおやりになっている。そう云う、個性ある小次郎のタイプを打ち出したあとを再びリテイクするのは非常に苦しいですね。

三船 武蔵も色々な人がやっていますがね。僕は僕なりの武蔵をやるつもりです。台本通り、監督の云う通り、僕の出来る限りです。

鶴田 勿論、僕は僕なりに小次郎を解釈しているんですが、あの特異な性格、彼の生涯は何か宿命的な悲しみを持っていて、覇気だけで生き抜いたと言った感じを与える、と同時にシンプルなペーソス、ニヒリスティックな性格、そして大変なロマンチストいわば、ハード・ボイルド・タッチのロマンチストです。巖流島でわがことなれりとニコリ笑った時にはわが命も終わっていた、つまり薄幸なロマンチストなんです。

三船 そのわが命の終るところなんですけどね、この次の第三部、巖流島の決闘で武蔵と対決するでしょう、その時のことを巨匠(稲垣浩監督)は言っていましたけど、小次郎はこんないい試合をしたことがないと、満足感を味わう。その時は既にわが命は終わっていた。そして武蔵は武蔵でこんな悲しい試合をしたことがないと云う、激しい孤独感を身に感ずるとか……

鶴田 ほう、そう云えばこの「宮本武蔵」は天然色だけでなく、そう云う点で新解釈もあるし、武蔵の人間的な成長をはじめ小次郎の特異な性格、その他の登場人物にしても人間と云うものを描いているから、再映画化の意義があると云うわけですね。

三船 第一部では木刀を振り廻して唯強ければよかったが、今度はもっと人間的に成長しているからその点でも難かしい、それにもう今やカラーだけでは売り物になりませんから。

鶴田 そう、でもアメリカ映画によくある、あのドギツイ原色は嫌いですね。あれは天然色じゃない、もっと柔かい中間色の出た色彩映画が好きですよ、僕は。

三船 巨匠もそれを狙ってんですよ。衣裳が全然地味でしょう、マリちゃん(岡田茉莉子)があれでも一番派手なぐらいで、なにしろ日本画調と云うんだから難かしい。

鶴田 僕の衣裳がカラーでは撮り難くいと雑誌のカメラマンがコボしていたな。

三船 全体にイーストマン・カラーってのは赤がよく出るそうですね。だから一乗寺の

決闘などは凄惨でしょう。

鶴田 とに角、カラー映画は面白いですね。僕は初めてなので、はじめは面喰らいましたよ、メーキャップはお白粉みたいに真っ白だしどうなるんだろうと思ったけど。

三船 マリちゃんがラッシュから出て来て悲観してんですよ。こんなに演技が下手なのかしらって、ラッシュは白黒ですから顔が白く飛んでしまっって顔の微妙な表情が出ないんです。演技が下手なのじゃない。

鶴田 時代劇でズラ（カツラ）をかぶるだけで大変なのにライトは強くて暑いし、準備は手数がかかるし、ロケで影を作るのに墨を使うとは驚いたな。

三船 草が明るければグリーンのペンキを吹き着けるし、大道具さんはペンキの缶を十種類以上も持って歩いていますよ。

ロケ宿の夜はふけて！

鶴田 今度のロケは全部揃うんでしょ。

三船 まだマリちゃんが来ていませんがね。

鶴田 だけど滝村プロデューサーも随分思い切ったことをする人ですね、こんなに俳優を集めて、俳優費だけで、映画が一本出来上るんじゃないかな。

三船 今までの武蔵にない豪華版ですよ。

鶴田 巨匠も張切ってますな、小次郎の役を引受けた後、小次郎のニヒルな性格から、ニヒルということについて随分論争をやりましたよ、巨匠とは初めてなんです、いい親爺さんですね、なんって云ったらいいかな —— よく何でも打ち明けられる人があるでしょう。ああ云った種類の人ですね。

三船 そのうち、このホールにも姿を現わしますよ、酔うほどに踊り出す、お通さん（八千草薫）も出てくるし、みんな出て来て、マンボを輪になって踊ったり、賑やかですよこのスタッフは。これでマリちゃんが来ればもっと賑やかになる。

鶴田 マリちゃんと云えば、セットの第一日目、僕が朱実を抱くシーンで彼女の抵抗に会うのだが、彼女の力が強くて倒れそうになった、力があるね。

三船 ほう、そうですか、僕も彼女の力には驚いたことがある。一乗寺に行く途中、彼女に止められて追い縋がられるんだが、それを振り切って行こうとするのになかなか振り切れない。

鶴田 二人の男性に認められたんだから、こいつは確かだ —— （笑声）

三船 マリちゃんは大熱演だからな。

鶴田 「こんな好きな役は滅多にありません」と大変気に入っているとか。

三船 マリちゃんの朱実にしろ、瞳ちゃん（八千草）のお通にしろ、ぴったりだ。

鶴田 完成が待ち遠しい。

三船 4月一杯かかるでしょう。

鶴田 これが終わったら三船さんは何をおやりになるんです。

三船 まだ決っていませんよ。

鶴田 もう一本現代劇をやりたいですね、僕は三船さんと僕でないと絶対に出来ないと

というようなものがある筈だと思うんです。そう云うものをやってみたいですね。例えばこれは僕のプラン²なのですが、犯罪者か何かを主人公にして話は因縁話で古くさくても構わない要は個人的な恨みと復讐の鬼みみたいな奴でも、人間本来のヒューマニティックなものには、ついに勝てなかったというような話ですね。これを貨物船を舞台にして、真夏の猛暑に甲板の板の目につめたアスファルトがブツブツ溶け出るようなドギツイ感じの中でね。

三船 ウン！ 何か体臭がにじみ出るような感じだな。

鶴田 「馱馬車」か「グランドホテル」型式で、その貨物船にくせも二くせもある連中が乗り組んでいてね。

三船 是非やりたいです。

鶴田 じゃこの辺で、そろそろ本格的な天気祭りをやりましょうか。

三船 O. K大いによろしい、やりましょう。

ここで席はホールのバーに移り、お二人の天気祭りなる酒盛りが始まりました。ロケ宿で夜ともなればスターも人の子、これからが愉しいという春の夜のひと刻でした。

「男性No. 1」を争う三船武蔵と鶴田小次郎のお二人が、これからタイトルをかけて争う飲みくらべは果して如何あいなりましょうや？ これからの状況が読者の皆さまにお伝え出来ないのが甚だ残念なのですが……。

この両雄が火花を散らす巖流島（第三部）の決闘シーンが今から愉しみとあったところです

² これは「結婚期 S29. 11」撮影中、井上梅次監督に「鷲と鷹」の原稿を読まされたことが念頭に有るのかと思う。